

『北海道現代史 資料編3 (社会・文化・教育)』編さん及び審議の経過について

1 社会・教育・文化部会委員

(1) 社会・文化小部会

職名	氏名	所属・職名	担当分野
小部会長／専門委員	小内 純子	札幌学院大学法学部教授	農山漁村の生活、メディア、娯楽・レジャー・スポーツ
調査研究委員	荒川 義人	札幌保健医療大学客員教授	食文化
調査研究委員	大下 智一	北海道立函館美術館学芸課長	美術
調査研究委員	小川 正人	北海道博物館学芸副館長	アイヌ関係(兼)
調査研究委員	小内 透	札幌国際大学人文学部特任教授	都市の生活、災害、祭り、炭鉱の生活
調査研究委員	角 一典	北海道教育大学旭川校教授	市民・環境・政治運動、娯楽・レジャー・スポーツ
調査研究委員	櫻井 義秀	北海道大学大学院文学研究院教授	宗教
調査研究委員	中澤 千磨夫	北海道武蔵女子短期大学名誉教授	文学、映画
調査研究委員	羽深 久夫	札幌市立大学名誉教授	住文化
調査研究委員	林 美枝子	日本医療大学総合福祉学部特任教授	ジェンダー関係、保健・医療・福祉
調査研究委員	吉岡 宏高	夕張市石炭博物館館長	炭鉱の生活 ※R4.11 逝去により退任
調査研究協力委員	秋野 禎木	元朝日新聞社記者	食文化
調査研究協力委員	菊地 和美	藤女子大学人間生活学部教授	食文化
調査研究協力委員	松本 真由美	日本医療大学保健医療学部教授	障害者運動

(2) 教育小部会

職名	氏名	所属・職名	担当分野
小部会長／専門委員	横井 敏郎	北海道大学大学院教育学研究院教授	教育行財政・教育計画、教育政治・教育運動、教育問題
調査研究委員	安宅 仁人	小樽商科大学商学部准教授	教育問題、教育運動、高等専門学校 ※R4.6 任期満了後、退任
調査研究委員	稲井 智義	北海道教育大学旭川校准教授	就学前教育・保育、児童福祉
調査研究委員	上原 慎一	北海道大学大学院教育学研究院教授	職業教育・産業教育
調査研究委員	大矢 一人	藤女子大学文学部教授	占領下の教育改革
調査研究委員	小川 正人	北海道博物館学芸副館長	アイヌ関係(兼)
調査研究委員	川前 あゆみ	北海道教育大学釧路校准教授	ハき地教育
調査研究委員	坂本 紀子	聖徳大学教育学部教授	義務教育
調査研究委員	辻 智子	北海道大学大学院教育学研究院准教授	社会教育

調査研究委員	辻村 貴洋	上越教育大学学校教育研究科准教授	教育行財政・教育計画、教育政治・教育運動
調査研究委員	二井 仁美	奈良女子大学大学院人文科学系教授	児童福祉・司法福祉
調査研究委員	藤根 収	星槎道都大学社会福祉学部特任教授	障害児教育
調査研究委員	牧野 誠一	元札幌学院大学人文学部教授	障害児教育 ※R2.6 任期満了後、退任
調査研究委員	三上 敦史	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	高等学校教育
調査研究委員	光本 滋	北海道大学大学院教育学研究院准教授	高等教育

2 社会・教育・文化部会における活動の状況

年度	部会の開催	◆主な検討事項	○編さん作業の内容等
H30	4回開催 〔社会・文化 8.16 3.13〕 〔教育 8.17 3.22〕	◆全体の構成案の検討、資料調査の進め方 ○資料編のスタイル検討（他県史事例などを参照して分野構成検討、各担当の分量等検討） ○資料調査	
R 1	3回開催 〔社会・文化 9.10 3.31〕 〔教育 7. 1〕	◆資料収集状況の共有、掲載資料の検討 ○スタイルの検討（統一的な時期区分やアイヌ関係の記述等検討） ○資料調査	○掲載候補資料（案）の発表
R 2	1回開催 教育 12.28	◆資料収集状況の共有、掲載資料の検討 ○資料調査	
R 3 ～4	—	◆資料収集・選別、解説の執筆など、最終調整 ○資料調査、掲載資料の絞込み ○目次案の作成	○筆耕(事務局)、筆耕原稿の内容確認 ○解説の執筆
R 5	—	◆最終調整 ○追加調査	○解説の相互閲読、修正作業

3 掲載資料、解説の担当者

第1部 社会・文化		担当者	資料数	第2部 教育		
第1章 終戦直後の混乱と生活	小内 透 角 一典		11 2	第1章 占領下の教育改革	大矢 一人	22
第2章 農山漁村・炭鉱の生活の変化	小内 純子【農山漁村】 小内 透【炭鉱】		21 13	第2章 教育行政・教育計画	辻村 貴洋	7
第3章 都市化と都市の生活	小内 透		18	第3章 教育条件整備・教育運動	横井 敏郎	12
第4章 アイヌ民族の生活と文化	小川 正人		30	第4章 小学校・中学校	坂本 紀子	18
第5章 保健・福祉・医療	林 美枝子		15	第5章 高等学校	三上 敦史	10
第6章 社会運動	角 一典【市民・環境・政治】 林 美枝子【女性】 松本真由美【障がい者】		34 9 11	第6章 ヘき地教育	川前あゆみ	6
第7章 自然災害と防災	小内 透		14	第7章 障がいのある子供の教育	藤根 収	12
第8章 宗教	櫻井 義秀		15	第8章 高等教育	光本 滋	17
第9章 まつり	小内 透		18	第9章 アイヌと教育	小川 正人	10
第10章 地域からの情報発信	小内 純子		19	第10章 職業教育・職業訓練・就職	上原 慎一	19
第11章 食住の変化	荒川 義人 秋野 禎木【食文化】 菊地 和美 羽深 久夫【住文化】		8 10	第11章 社会教育	辻 智子	19
第12章 美術・文学	大下 智一【美術】 中澤千磨夫【文学】		11 11	第12章 就学前教育・保育、子育て、児童福祉	稲井 智義	9
第13章 スポーツ	小内 純子 角 一典		16 1	第13章 少年司法福祉	二井 仁美	8
計			287	計		169
合計						456

4 原稿案の審議等の状況（令和4～5年度）

年	月 日	区 分	主な内容
R4	—	部会	掲載資料のとりまとめ（8月）、目次案作成・解説執筆開始（9月～）
R5	1月	部会	解説の集約、チェック・修正作業
	2月14日	企画編集部会	掲載資料の審議
	2月22日～3月30日	部会	掲載資料及び解説の相互閲読
	4月1日～5月8日	部会	相互閲読結果確認、修正作業
	6月1日	企画編集部会	掲載資料及び解説文の成案

企画編集部会での主な議論と整理結果について

第1部 社会・文化

章		企画編集部会での主な議論（2月14日及び6月1日）	整理結果	
全般		「アイヌ」の章の位置が「スポーツ」の後でよいか。	第4章にアイヌ関係の章を立てた。	
2章	農漁村・炭鉱の生活の変化	【炭鉱の生活】	生活に関する資料が不足しているほか、地域の偏りなどが気になる。	担当委員が調査を進め合計13点の資料を掲載した。
			第三節の「最終局面での炭鉱の生活」の名称に違和感がある。	担当委員が検討し節の名称を見直した。 (閉山の進行と炭鉱生活)
4章	戦後北海道の社会の中のアイヌ民族の生活と文化	編さん委員会で指摘された北海道とアイヌの歴史が関わっているという部分について、検討する必要がある	担当委員が検討し合計30点の資料を掲載した。	
		『吉田菊太郎資料目録2文書資料編』に出ているものから採られている資料の取扱いをどうするか。	担当委員が検討し収録した。出典は原資料所蔵先とする。	
6章	社会運動	【市民・環境・政治運動】	長沼事件の資料が矢白別平和資料館の出典となっていることに対して解説で触れてもよいのではないのか。	資料解説のほか、「あとがき」（小部会長執筆）で資料掲載の考え方を記載する。
		【女性の人権を求める団体活動】	例えば、第2節（2）で2000年代の資料がでたあと、第3節で高度成長期に戻るなど、掲載する資料の年代があまりにも前後しすぎているため、構成を練り直してはどうか	担当委員が構成を検討し概ね年代順とした。
8章	宗教	比較的新しい時期の新聞記事（朝日新聞）は、できるだけ使用を避けていただきたい	担当委員が検討し掲載資料を見直した。	
10章	地域からの情報発信	内陸の都市を拠点とする北海タイムス(戦後に道新から旧北海タイムス派が分かれて創刊、札幌市)や十勝毎日新聞(帯広市)についても、何らかの形で触れおくべきではないか。	担当委員が検討し掲載資料を見直した。	
11章	食住の変化	【食文化】	今後、解説を付す際には、なぜこれらの資料を選んだのかについて、例えば、「戦後に新たに誕生した食文化を中心にとりあげた」というような文言を挿入すると、読者に親切ではないか	資料解説のほか、「あとがき」（小部会長執筆）で資料掲載の考え方を記載する。
		【住文化】	掲載予定資料の大半は、田中知事の発言を中心に殆ど同一内容の繰り返しではないか。例えば田中知事の伝記から引用した「羽深・一」資料は、敢えて掲載する必要があるのだろうか	担当委員が検討し、田中知事より後の掲載資料も追加した。
			刊行物が出典となっている資料が多いのではないか	担当委員が検討し、刊行物であっても一般にあまり公開されていない資料なども追加した。
12章	美術・文学	【美術】	美術の歴史を、経済の段階によって区分している点が気になった	節の名称を経済の段階ではないものに変更した。
		【文学】	今後、解説を付す際には、なぜ同人誌を中心として取り上げ方をしたのかということの説明を挿入すると、読者に親切ではないか	資料解説のほか、「あとがき」（小部会長執筆）で資料掲載の考え方を記載する。
13章	スポーツ	駒大苫小牧の活躍を掲載しないのか。	資料編の掲載範囲外の時期の出来事であるため、「通史編」の叙述の中で記載を検討する。	

第2部 教育

章		企画編集部会での主な議論（2月14日及び6月1日）	整理結果
全般		章の内容に重なりが見られる。	小部会長が検討し、内容が重なる章節を統合して14章から13章構成に変更した。
		「アイヌ」の章の位置が「少年司法福祉」の後でよいか。	第9章にアイヌ関係の章を立てた。
1章	占領下の教育改革	資料の数が多分、資料一つ一つのボリュームを抑えてページ数を調整している。長い資料を掲載している章とのバランスはどうか。	1資料2ページ程度を目安としてページ数の調整を実施した。
3章	教育条件整備・教育問題	「北教組との協定書」1点のみとなっている。	担当委員が検討し掲載資料を追加した。
		昭和50年代の新聞記事は、他の資料への差し替えできないか。	担当委員が検討し掲載資料を見直した。
5章	高等学校	学区等に関する資料にとどまっており、第4章「小学校・中学校」と比較して、教育活動に関する資料がない。	担当委員が検討し掲載資料を追加した。
		章が節に分かれていない。	第1節 戦後の高校設置、第2節 新しい高校教育、第3節 高校教育の課題と高校再編 とした。
7章	障がいのある子供の教育	特殊教育というネーミングはどうか。社会・文化では「障がい者運動」ともあるが。	小部会長、担当委員が検討し「障がいのある子供の教育」とした。
8章	高等教育	探索中の資料がいくつかある。	担当委員が検討し合計15点の資料を掲載した。
9章	アイヌと教育	編さん委員会で指摘された北海道とアイヌの歴史が関わっているという部分について、検討する必要がある	担当委員が検討し合計10点の資料を掲載した。
		他に比べて引用の長い資料がある。	1資料2ページ程度を目安としてページ数の調整を実施した。
10章	職業教育	公共職業訓練の資料として、論文に引用された表を掲出しているが、このような資料の選定は妥当なのか。	担当委員が検討し掲載資料を見直した。

共通

章・節等	企画編集部会での議論（2月14日及び6月1日）	整理結果
はしがき及びあとがき	はしがきは編集長、あとがきは社会・文化、教育の両小部会長としてはどうか。（資料編3冊とも）	はしがきは編集長、あとがきは社会・文化、教育の両小部会長とする。